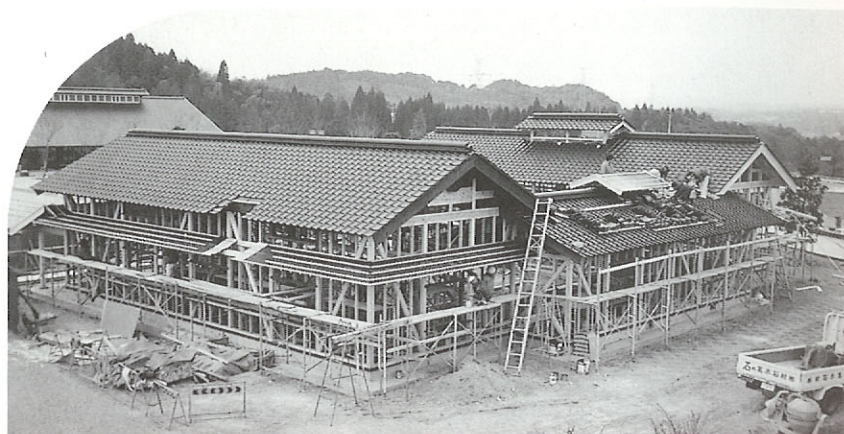


入吉クラフトパーク石野公園では、去る二月二日に「焼酎館」の上棟式が行われました。なぜこのことを敢えて寄稿したかという点、実は二月二日は、私の誕生日なのです。若干、間はあきましたが、二十四歳の頃からほとんど毎日、一年三百六十八日ぐらゐのペースで晩酌が続いています。今じゃ、焼酎の大ファンです。その焼酎にまつわるエピソードや伝説、はたまた、球磨焼酎のすべてが一目で分かる館が出来ること。恐ろしく、本誌四月号をみなさんが読まれる頃には、「焼酎煙?」も立派に出来上がっていることでしょう。高速度も出来たことです。是非、一度おいでください。

入吉の焼酎焼け一ファンより



さわやか〜ぜ



お便り募集

みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を200~400字程度にまとめてお送りください。
(採用された方には「風」テレホンカードをプレゼント)

●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

昨年より月一回程度、用事で熊本へ行く機会が出来まして、道中を楽しみながら往來しています。美しい自然環境に恵まれ、道路整備も着々と進んでいるように思います。特に熊本空港周辺の道路及び街路樹は素敵です。

昨年十一月頃のことですが、熊本県庁の前を通りかかったとき、県庁庭の秋の色に染まったイチョウ並木の素晴らしいに吸い寄せられてしばらく散策したのですが、「ベンチ」があればもっといいだろうなあと思いました。

今後、時間のゆとりをみつければ、熊本の旅、散策をし熊本の自然、人情、味に浸りたいと思っています。

(大分県挾間町 原田勝昭)

●表紙イラスト 阿津坂雅弘

表紙のことば
郷土熊本の「顔」ともいふべき「風」の表紙制作という大役を無事に終え、正直なところホッとしています。拘束の多い日頃の仕事とは比べようもなく自由に、又、楽しく制作させて戴きました。これを通じて多くの貴重な事も学ばせて戴きました事を改めて感謝いたします。機会があれば読者の方々とも遠うかたちでお目にかかる事があると思います。一年間本当に有難うございました。

●シーン'91 撮影のことば 長野良市

街の歴史を感じさせてくれる楠の大木の間に出現したフォルムに、光と風を感じました。対峙する松浜軒とこの博物館を分ける国道は、タイムスリップの境界にみえてきます。

C O N T E N T S

1-2	風のコンパス
3-10	特集〜熊本の戦後史〜
11-12	熊本人物水路〜古墳壁画を描いた人々〜
13-14	シーン'91
15-18	風を探して〜ママさん探訪記〜
19-20	熊本六街道〜昔前街道〜
21-22	北から南からSPECIAL〜阿蘇・天草広域市町村圏〜
23-24	風の告知板
25	姜信子の韓国通信
26	HOT LINE・さわやか〜ぜ

編 集 後 記

湾岸戦争により、私たちは「自国、ふるさと」の意味を強く考えさせられました。地球的視野の広さが求められている今日であればこそ、わがくまもの持つ歴史・文化・自然等のすばらしさを見つめ直し、調和のとれた質の高いくまもとを21世紀に引き継ぎたいのですね。

さて、6月号より新たな企画でKAZEをお届けします。今後ともどうぞよろしく愛読ください。

愛読者募集

県では、県政広報誌KAZE「くまもとの風」の愛読者を募集しています。「くまもとの風」は、くまもとの新しい動きやユニークな人、県下各地の催物などを写真やイラストを織り混ぜてお届けする広報誌です。あなたも、この機会に「くまもとの風」で素敵な出会いを体験してみませんか。

■発行/偶数月発行 年6回
■郵送料として
1,500円(郵便切手をお願いします。)
■お申し込みは
〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号
熊本県広報課「くまもとの風」係

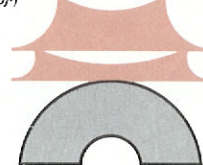
한국에서 아시아를 만났다

한 다 게 ソン ア シ ア ル ル マン ナ ッ タ

韓国でアジアに出会った

FROM KOREA

姜信子の韓国通信



REPORT

by

Mrs. NOBUKO KYO

姜信子さん

フリーライター。ノンフィクション「ごく普通の在日韓国人」が朝日ジャーナル賞受賞。
熊本と韓国の交流推進のため、韓国・忠清南道庁に県職員として初めて派遣された夫とともに一昨年5月下旬に渡韓。



香港映画「縦横四海」の宣伝看板(大田市内)

映画ポスター掲示板

「大田EXPO'93(韓国世界博覧会)」のマスコットを使った「横断禁止区域」の標識

韓国に来て、我が家の財産が少し増えた。ビデオテープだ。それもすべて香港映画のビデオである。これには、広東語または中国語のセリフと韓国語の字幕とで勉強にも一石二鳥という理由もある。日本ではまだ手に入りにくい稀少品だからでもある。

これら香港のビデオが、最近、韓国でも盛況のビデオショップに行く、棚の三分の一を占めている。我が家に日本語を勉強しに来る女子高生たちに「好きな映画俳優は?」と聞けば、「張国榮(レスリー・チャン)」「劉德華(アンディ・ラウ)」「周潤發(チョウ・ユンファ)」と、

間髪を入れず答える。三者いずれも香港の俳優で、日本を除いたアジアではトップスターだ。韓国の映画館には彼らの映画が常にかかっている。テレビのCFにも彼らは登場し、レコード店からは彼らの歌声が聞こえてくる。

香港だけじゃない。台湾映画や韓中交流を反映して中国映画もある。ここぞとばかりにそれらを見まくったのだが、それは日本では知りたくないアジア世界の発見でもあった。

一九三〇・四〇年代を描いたアジアの映画なら、ほぼ間違いなく日本が登場してくる。あえて紋切り型に言えば、韓国は深刻に、香港は笑いを込めて(冷笑に近い時もある)、中国はボンと事実を差し出すような形で当時の日本人を描く。国ごとの経験と国民性の違いで描写も少しずつ違うのだが、それらは日本製の美しい戦争物とはまったく対照的だ。その二種類を見て初めて「ウーム、そうだったのか」と、見えてくるものもある。

四〇年代から、五〇年代を描く香港映画には中国での共産革命と大陸からの香港への大量の避難民の描写は欠かせず、六〇年代はベトナム戦争だ。ベトナムには、韓国軍も行き多くの若者が戦死したという歴史も韓国にはある。私はベトナム帰りの男性に日本語を教えていたこともある。ベトナム戦争の混乱を描く時、香港の人々は一九九七年の英領香港の中国返還を思い描いている。資本主義が共

産主義に吸収される際の混乱を重ねあわせているのだ。その一方で、そんな不安を笑い飛ばし、ビジネスを開拓し、国境など御構いなしにアジアはもちろん世界中に飛び出していく華僑がそこには登場する。

韓国にも華僑はいる。多くは共産革命の時の難民だ。その中の私の知り合いは言う。「戦争や革命で逃げたり、異国で暮らしていく時、何よりも大切なのは血縁とお金だ。」

韓国を知りたい。さらには中国、アジアをもっと知りたい。数多くの異なる視点とより広い視野を持ちたい。これは韓国と付き合うことを通して湧いてきた、私の大きな「欲」である。



忠清南道牙山郡「外岩里マウル」入口に立つ魔除けの「チャンス」



外岩里マウルの新築中の草葺の家

※外岩里マウル(村、集落) 村成立15世紀当時の両班の家や農家をそのまま伝えるものとして伝統建造物保存地区第2号に指定されている